

我等の面前にその如き語つてゐるのではない。我が新仲若の正当組織対立は実に悲しむべき現象である。斯る客観的情勢の許に於て此の退却的非戦的動向を克服し、之の向を鑑つて我々を鞭打つてそのは我々農民戦線の統一拡大の気運をなすべし。亦我々一般農民運動家は日本農民問題の分析に於いて対立階級との関係も尤も把握することゝ公然未だかつて其の闘争戦術が只一時的の外面策を以て止まらざる客観的情勢を統一的に把握し分析して衆証法的容れを可成り得ず、其の結果、運動を断つる停滞した情勢に押し込められてしまつた。よく一般に運動の停滞は弾圧によるものと云はれてゐるが若し此の計を全体の原因とするならばそれは本物の發展を衆証法的に捉へない証據である。我々は斗争の彼我団体を具體的に西量しないもの、云ひがある。例へば衆証法的に考へた場合に此処に一つの現象を相手とする。この現象の現在を以て唯一の対敵し、進ま、未承、と完全の對峙して全然閉塞せしめながら大なりが我等の對敵或いは戦術は或いは敵の彈圧攻撃によつて疎遠し去られるやも知れぬ。然し問題は切斷して唯一の対敵とすることは實在の法則が許さぬ。現実がさうではないのである。だから考慮断定は非衆証法的淺薄の經驗論的判斷である。故に我々は現在の計を問題の對象としない其処に具體的に彈圧される現在を以て然る階級斗争の場面である限り彈圧を克服する本来を計画せざるを得ない。

明言する。実践——実践は餘り彈圧 対の問題である。我々の運動資本主義社会否定の運動である限り火配階級が存在する間彈圧は当然の予期であり、また彼等支配階級としては其の彈圧こそが唯一の武器である。これに對する我々の武器は資本主義社会が既に我等一般大衆の生活に適さざるものであり、進んでこの不当な社会と具體的否決して去ることゝ我々人民の生活を解放するものであることを

自覚せよ、この目的に向つて又動的に現社会を維持せんとする彈圧に向つて奮進せしめることである。彈圧と進襲これ階級運動存続の対立過程である。其処で治安維持法なる論議の核心をなすものがあるがこれは後に譲らるべき斯かる意味に於て我々は只後らに彈圧に對して悲しむ必要はない。悲慮を抱けるは余り賢衆ある人とは思へない。只然し我々が悲しまねばなりぬことはこの彈圧に對し、粉碎の行動に出得ざる我等の組織の貧弱である。其れを基礎として計画する、動員の望み少きことである。我等の組織が大家愈起の脈管にり得ることである。この頼りなき現象を一刻も早く克服しなければならぬ。この目的が具體化したならば我々の指導者は公然存在性を確保して奮進するであらう。

其の弊しき姿は我等の面前に巨容を現すであらう。相反野仲若の組織も此れが實現のための一層の努力を此際つと可きである。然し斯の如き大衆行動は決して懐念的アツセルや二階から目撃式の縁遠い非具體的な戦術では全然大家愈起せしめられないであらう。矢張り直接大衆の生活に實に経済的要求の充足から出發しなければ駄目だ。我々はこれ現在の農村不況に對するに余りに巨多の材料を許りに発見し得るであらう。

運動の不振組織の萎縮、活動資金の枯渴、これはこの逆の場合を考慮して組織を土台として歩みを進めるに自由解決する問題である。

繼つて我々農民戦線を見るときや老つ可き絶好の機会に際合してゐるものがある。清境と検査を一蹴して敢然として我々の旗を掲げる時である。全農会、全農協本部、日本農民組合同盟また其の